

足立理助村長 2期目の出発 4年を振り返り、新たな4年間を歩んでいく決意

平成28年9月6日の任期満了に伴う東秩父村長選挙で、足立理助氏が無投票により当選となりました。足立村長には、改めて平成28年9月7日から4年の任期を担っていただくこととなります。

今日、村の人口は約3000人となり、若者の村離れ、少子高齢化といった問題は日々進行しています。足立村長には1期目において、厳しい財政状況のなかで、住民に対し福祉や環境面、教育などについて、さまざまな施策を行っていただきました。

そのような4年間を振り返り、新たな出発点に立たれた今、何を政策目標にしておられるのか、お話を伺いました。

①就任おめでとうございます。

2期目となりましたが、今の気持ちをお聞かせください。

村長 2期目を迎えることができたのも、皆さまから寄せられました厚い信頼だと考えます。与えられた使命の重さをかみしめながら、初心を忘れず、村民の皆さま一人ひとりの目線に立つて、何においても責任を持ち、先を見据えた実行力のある政治を目指します。1期より申し上げている、『公平・公正』を片時も忘れず、村政というみを邁進していきたいと思えます。

②まず、1期目を振り返って、重点的に行った政策をお教えください。

村長 1期目において、私は『心豊かな和紙の里』、これを核としてさまざまな政策を行いました。

た。

まもなく完成予定の和紙の里リニユールにおいて、年数をかけて計画してきた『和紙の里ハブ化構想』が実現いたします。農産物直売所の移転や道の駅として生まれ変わり、村外の方からも注目され、また、村内の方の生活拠点となる持続可能な『小さな拠点づくり』が叶うところです。そのための下準備を行った4年でありました。何度も練り直しを行い、話し合い、行動し、今日にいたったのも、関係各位のお力添えをいただいたおかげです。

また、任期中、細川紙の『ユネスコ無形文化遺産』登録という大きな流れが生まれまし。その流れはともに登録となった石州半紙・本美濃紙との連携、そしてそこにはとどまらず、

日本を越え、海外との『絆』を生みだしてくれました。

村民の皆さまのために、何ができるかを私なりに考えた4年でもありました。子ども子育て支援事業については、出産祝い金制度、子ども医療費の拡充、給食費の助成等を行ったことで少しはお役にたてたと考えます。また、高齢者のインフルエンザ予防接種・住民健診の無料化など、魅力的な村となるよう努めました。

防災においては、防災情報通信システムのタブレットの活用、東秩父分署の移転計画等、今後の課題ともなる事業を進めてまいりました。どれも1番と選ぶことのできない大切な政策ばかりです。

③では、2期目となる今後についてご質問します。これからの政策について、



▲2期目となる足立村長インタビューの様子

村長 この小さな村を魅力的な村に仕上げるためには『防災・医療・雇用対策・学校や地域』を新しい時代の要請にこたえるようにしていかなければなりません。平成28年3月に作成された『東秩父村まち・ひと・しごと創生総合戦略』を着実に進め、一人ひとりが自信をもって輝ける、持続可能な政策を今後も続けていく所存です。

特に、1300年の伝統ある手漉き和紙技術、その中で生まれた『細川紙』の技術を後継者に伝承することが重要課題だと考えます。今後、技術後継者育成事業に力を注ぐとともに、その後継者たちの活躍の場である和紙の里の更なる発展を目指し

引き続き、「地域村づくり」を共同の目的として、信頼と誠実のなかから、伝統と文化を守り、後世に伝える地域づくりをしていかななくてはならないと、この重責を切に感じています。最後になりますが、これから明日の可能性について、村民の皆さまと手を取り合い、つくっていききたいと考えます。そのためにも皆さまの深いご理解と温かいご支援をたまわりたいと心からお願ひ申し上げます。

(9月9日村長室にて)